

## 国語 第6学年 話し言葉と書き言葉 検討会の想定問答

**指摘 1：**この単元で身に付けることは何か。

**返し：**話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。話し言葉を劣った言葉として扱わない。B(1)オの学習として、口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。

**指摘 2：**何をもって学習できたと判断するか。

**返し：**おおむね満足できる状況は、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

**指摘 3：**活動が楽しいだけで終わらないか。

**返し：**口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確かめる。

**指摘 4：**つまり児童にはどんな支援をするか。

**返し：**口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。これに対して、独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。〔知識及び技能〕(1)イとB(1)オを切り離さず扱う。

**指摘 5：**考えが違ったときはどう扱うか。

**返し：**教師の結論を選ばせず、「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

**指摘 6：**本時の評価で態度まで決められるか。

**返し：**本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

**指摘 7：**端末がない学級でもできるか。

**返し：**口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

**指摘 8：**時間が足りないとき、どこを残すか。

**返し：**総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

**指摘 9：**この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

**返し：**口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その場にはいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

